

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500170
法人名	社会福祉法人 すいよう会
事業所名	グループホーム ほの花
所在地	新居浜市郷三丁目16-33
自己評価作成日	平成27年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年6月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ほっと、のんびり、かきねなし」この理念の元、入居者様の意向を大切に開かれた施設でありたいと努力している。ご家族との信頼関係、地域の方との交流を大切にしている。水分摂取に力を入れ、個別に目標を設定し、脱水の予防、便秘予防、日中の覚醒レベル向上に活かしている。排泄ケアにも力を入れており、排泄チェック表での排泄リズムの把握で、日中はほぼ布パンツで過ごせるよう自立支援に努めている。また、認知症状の改善には、服薬の見直しや学習療法を取り入れ、コミュニケーション能力の改善や生活の活性化に繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

予讃線沿いののどかな景色の中にある事業所は開設5年目を迎え、近隣には母体法人が運営する事業所が多数あり、相互協力することができている。事業所ではグループホームという集団生活の中にも利用者個々の個性を大切にすることが実践できている。利用者一人ひとりの「その人らしさ」に焦点をあてた支援に努めている。5年間を経て地域交流が自然な流れで広がり、協力医療機関とのスムーズな連携を図りながら日々の健康管理と共に利用者の暮らしを支えている。法人研修システムや事業所内外での勉強会への参加、マイケアプランの作成による職員を育てるしくみを持ち、ユニットリーダーを中心とした運営の中で和気あいあいとした職員関係が生まれ、利用者や家族等の気持ちに寄り添える関係づくりを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームほの花

(ユニット名) なでしこ

記入者(管理者)

氏名 阿部勇一

評価完了日 平成27年6月8日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 前年度に続き「知る事から始めます」を理念として行動方針にしている。新人職員が入職した際にもご利用者本人の事、ケアの方法、病気の事等、知らなくてはできない事が多くある事を教育の中で反復して説明し理念に基づいたケアを行う事が出来るよう実践している。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員間で話し合い事業所名から作成した『ほっとのんびり かきねなし』という理念を軸に、ユニット毎に行動方針を掲げている。職員の入職時に説明するほか、利用者一人ひとりの「その人らしさ」を追求し、介護計画や日々のケアへと理念に基づいた実践に努めている。自己評価作成は経験の浅い職員を中心に作成し、地域密着型サービスの意義を再考したり、日々の実践を振り返る機会となっている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 例年と同じく自治会加入、地域清掃。地域の行事にも参加しており、清掃活動等も行っている。スタッフもゴミ捨てや外出の際に挨拶や会話を行うようにし、地域の方とのかかわりを持つようにしている。また地域での行事がある際には楽しめるご利用者様と参加するようにしている。</p> <p>(外部評価) 近隣に所在する法人各事業所と共に地域に認識されている。事業所を含め法人合同での祭り等の行事や地域行事等互に行き来する関係が構築されている。また、開設5年を経て、職員個々がそれぞれの個性を生かしながら地域住民と日常的な関わりを持つことで、自然な流れで交流が深まっていることが実感できる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 法人全体で勉強会を実施しており、地域の方にも参加の呼びかけを行っている。自事業所でも運営推進会議の際に、取り組みの発表や、勉強会を行っている。認知症の方の支援や理解について知識を深め、ケアの中でのご家族様との関わりを持つ機会を大切にしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	<p>(自己評価) 昨年度と同様にご利用様の日常の様子をDVDにまとめ運営 推進会議中にご家族に観ていただいている。質疑応答、ご 家族、地域としてこういった事に取り組んでみたいという事 はないか等確認を行っている。</p> <p>(外部評価) 自治会長をはじめ見守り推進委員、民生委員ほか地域住民 や、多数の家族参加を得て2か月毎の開催ができています。現 状報告等運営に関する報告、地域情報や協力医療機関からの 情報などの情報交換のほか、看取りについての勉強会等内容 は濃いものとなっている。会議内容はパワーポイント資料を 活用する等、視覚的にも意識に残る伝える工夫をしている。 推進会議が参加者に有意義な時間となる取組みとなってい る。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	<p>(自己評価) 前年同様運営推進会議に参加しての感想を聞いたり、行事へ の参加案内、待機者報告等を行っている。流行っている病気 等の情報をいただき、カンファレンスで役立っている。</p> <p>(外部評価) 市町村担当者とは良好な関係にあり、日頃から待機者報告等 の連絡を通じ協力関係を築いている。また直接市役所に出向 き積極的に相談したり、運営推進会議への参加依頼等が円滑 にされている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁 止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 毎年4月度の全体ミーティングで身体拘束についての勉強会 を行っている。以前同様夜間以外の施錠は行っておらず、ご 利用者に動きがあった際にご利用様の気持ちや、どうし たいのか等関わりやケアを優先して行動できるように話し合 いを持っている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしない方針を持ち、身体拘束に関する勉強会を定 期的に開催することで正しい理解を深めている。身体拘束に つながる要因の1つである職員のストレスケアに着目し、管 理者やユニットリーダーは職員への精神的な面からのフォ ローに配慮している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<b>(自己評価)</b> 前年同様研修で虐待について学んでいる。管理者、ユニットリーダーは各スタッフのストレスケアを考え、業務の流れや関わりを保持の言動についての把握に努めている。スタッフは痣や傷等身体に異常がないか確認し、介助を行っている。傷などの発見があった場合には原因を分析し、次回起こらないための防止策を考えている。カンファレンスの際に介護技術講習を行った。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<b>(自己評価)</b> 前年度に続き研修や勉強会などで学ぶ機会を設けている。現在、自立支援事業や成年後見制度を活用する事はないが、必要性のある際に適時活用できるように今後も学んでいく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<b>(自己評価)</b> 契約時には必ず重要事項説明書を用いて、十分な説明を行い各項目毎にご家族に確認をし、承諾を得ている。解約や改定にも速やかに対応し同意を得ている。またご家族の不安なことや疑問を聞くようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<b>(自己評価)</b> 前年度に続き、ご家族からは運営推進会議や面会時、ケアプランの作成段階で、ご利用者からは普段の会話やケアプラン作成時に意見や要望等を察したり、直接確認する事で、運営に反映させている。 <b>(外部評価)</b> 利用者には日頃の生活の中で希望を聞いている。家族等へは面会時や運営推進会議への参加の際、率直な意見や希望を聞いている。出された意見から中庭のスロープ設置等の環境整備改善に取り組んだり、外出希望等迅速な対応で運営に反映するよう努められている。毎月、担当職員を中心に利用者の生活ぶりをお便りとして届け、現状を伝える工夫を行うほか、介護計画作成に関し、直接または電話で日頃から連絡を密に取るなど、管理者やユニットリーダーだけでなく全職員が家族等との良好な関係づくりを大切にしており、信頼関係が構築されている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 前年度と同じく、ミーティング前面談や日常の会話の中からユニットリーダーが各スタッフ個人の思いや希望を把握している。ユニットリーダーは、面談終了後、管理者へ報告、提案を行っている。</p> <p>(外部評価) それぞれのユニット毎に利用者の心情に沿う運営を行い、日常業務の中で職員同士の意見交換ができる良好な関係が構築できている。法人研修システムや事業所内外での研修等での機会を設け、職員の資質の向上に取り組むほか、各自が作成する「マイケアプラン」を元にユニットリーダーと面談の機会を持ち、職員の意欲向上につなげている。管理者もシフトに就いており、職員や利用者の現状について常に把握し、必要に応じた相談や助言ができ、身近な存在となっている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 前年度に続きマイケアプランの作成と2か月毎の評価を行っている。面接の際、意欲向上の図れるような目標設定と振り返りを行っている。また目標設定の段階で具体性を持たせ、個別に必要であると感じられる助言を行っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人研修（読書会、人材育成研修、管理者研修、認知症、介護技術等）の研修システムがあり、職員の質の向上に努めている。ほの花内でも年6回勉強会をし小グループでの発表等も行い知識の伝達、伝達技術の向上、共有を目指して取り組んでいる。法人外研修へは研修受講記録を作成し研修参加者が偏ることなく長の判断により必要と思われる研修へ参加してもらっている。今後は自ら参加したい研修があれば参加できるように取り組んでいく。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 同法人内に事業所が複数あり、法人勉強会などで交流する機会がある。自分たちのサービスの質を向上させられるよう意識をしている。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居が決まった段階からユニットリーダー、一定のスタッフが数回にわたり面会し、そこで得た情報、要望など、全スタッフに周知している。入居してからがスタートではなく、それ以前より関係性や顔なじみの職員がいることでリロケーションダメージの軽減や、安心できる居場所づくりの基礎を作れるよう取り組んでいる。また住まわれている部屋の雰囲気や家具の配置をほの花でも再現し、可能な限り馴染みの空間での生活を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 前年度に続き、ご家族にも積極的に話し合う時間を作ったり、ご家族の不安な事や困っていることに傾聴する姿勢を持って対応を行っている。ご家族の本当に不安に思っている事が何か理解する為普段の面会等の際でも何気ない会話から情報が無いか気を付けている。ご家族の要望や不安をしっかりと受け止め、答えを出し、関係性を築いていっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 前年度と同じく、事前面接での情報を基に、安心して生活できる環境作り（物的、人的環境の整備）に努めている。また、ご本人やご家族に何度でも見学して頂き、納得して入居出来るよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 各ご利用者様毎に役割を持っていただき家事や工作等一緒に行っている。スタッフから感謝の言葉を伝える機会を意図的に増やし、生活の中で相互関係を築けるシステム作りを行っている。カンファレンス時、一人一人の役割について検討している。また、行動自体が難しい方でも役割として知識、経験してきたことを聞かせてもらい、より良い関係が築けるよう努めている。ユニット内のご利用者様の介護度が重度化しており役割作りが難しい方もおられる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事や個別外出等参加して頂けるように、案内し協力して頂いている。ご利用者が不穏な場合には電話での対応、面会、宿泊などの協力を依頼し、一緒に過ごして頂いている。前年同様ご家族にもケアプランの立案時提案をしていただいている。スタッフは順序立てを行い、機を見てご家族との外出や行事参加を持ちかけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 前年に続いて、馴染みの美容室やお店などへ出掛けている。入居前に使っていた社会資源は調べており、現在も継続して使用できている。また入居以前に利用されていた施設に友人等がおられる場合にはそちらへ行ったり、その方にほの花に来ていただいたりして関係を継続している。入居前に住んでいた場所へ外出をしたりもした。  (外部評価) 利用開始前に詳細に生活歴等の情報を調べ、職員間で共有できており、利用者がこれまで大切にしてきた関係を断ち切ることなく継続できるように努めている。また事業所での生活の中で利用者同士の関係が円滑に保てるよう配慮があり、本人の気持ちを大切にした支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 前年度と同様にご利用者の性格、好み、相性、言動などの視点から関係性を考え日常生活を送る様々な場面で配慮している。また、共通項を探し無理なく自然と良い関係が築けるような支援をするよう心がけている。活動もADLの近い方と行う事が出来るように仕事の振り分け方等カンファレンスで話し合っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後もご利用者様のご家族と連絡を取り、関係性を継続するよう心掛けている。退去後もご家族様が訪ねて来て下さることもあった。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で個々に職員が関わる時間を作り、日々の言動の中から本人のニーズや思いをアセスメントし蓄積している。日々の生活の中から気になるところを記録に残し、前年同様に様式を使用してそのデータの中から情報を得てカンファレンスで討議し、それに添ったケアプランを立案し実施している。 (外部評価) 日頃の生活の中で利用者個々の思いを把握できるよう個々の関わりを大切にしている。思いを伝えることが困難な状況にあっても、家族等からの情報はもとより、これまでの関わり中で蓄積された記録等から、その人らしさとは何であるか、理念に立ち返った本人本位の検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 前年に続き、生活歴やアセスメントを活用し、さらにご家族が来訪された場合にお聞きする等して現在進行形で情報収集に努めている。受診等長時間ご家族と会話の持てる時間には積極的にご本人の話聞くようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 各ご利用者様の生活リズム等をつかむ為、日々の記録を活かしより良いと思われるもので生活をしていただいている。介護度の重度化もあり、自発的な行動が減っている方でもメリハリをつけ生活できるようにしている。ユニットリーダーとスタッフとの面談で1ヵ月の様子を振り返り、必要なことは何か話し合い、カンファレンスで討議した後ケアに反映させている。前年同様にケアプラン実施表を毎日記入してスパンで見えて出来る事探しをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 前年度に続いて、現在の状況、抱える課題、ニーズについて、本人の意見、ご家族の意見、自施設だけでは対応が困難な場合は他部署の意見や協力を含めた介護計画の作成を心がけている。ご家族からの提案を基にそれを実現可能な物に出来るように相談しケアとして行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者に対し複数人の担当制を敷くことで、多角的視点での気付きを持つことができている。利用者や家族等からの意向を踏まえ、他部署や専門家の意見や協力を仰ぎながら、個別の暮らしをサポートする具体策を話し合うことができている。現状に即した介護計画へとつなげている。また状況は日々詳細に実施記録として残されており、根拠あるモニタリングができている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 前年度と同じく個別ケース記録、排泄記録、健康チェック表、ケアプラン実施表は毎日記入している。入浴や排泄の介助の難しい方に対して前後何をしてどのような雰囲気でしたかまで記録し、情報の共有をしてケアを実施し見直している。情報の共有化、周知に重点を置き出勤者が必ず見る業務日誌に連絡事項等書面でファイルに綴じる事が出来るようにしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 前年度と変わらず、他事業所の協力やユニット同士の連携を図っている。ユニット内でも食事の場所をラウンジに変更したり、本人の理解出来やすい食器を使ったりしている。入浴時間や食事の時間を決めず、各自の希望に合わせて提供している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 様々な地域資源を活用し、ご利用者それぞれが力を発揮できるように支援している。地域の不要な柿をご利用者様と一緒に集めに行ったり、スタッフの家の畑に野菜を取りに行ったりした。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価) かかりつけ医は大半が入所と同時にいまなかクリニックになっており看護師が中心となり往診の対応をしたり、家族と協力し受診している。ご家族が同行できない場合には前後に連絡を取り、経緯や結果を説明している。受診後数日経過してからも連絡を取るようにはしており、ご家族が納得して頂けるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 多くの利用者が協力医療機関をかかりつけ医として利用している。専門医等本人の希望する医療機関への受診も家族等の協力を得ながら支援しており、必要に応じ同行や情報提供、緊急対応を行っている。看護師と共に日々の健康管理や緊急時の医療連携をスムーズに図っており、利用者や家族等の健康に関する不安の軽減に努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 特別な変調や気づきがあった際には看護師に報告し、指示を仰ぐようにしている。現場でも実際にご利用様を見てもらい共通の意識を持つようにしている。ケアの変更等がある場合には理由も業務日誌に記入し、共通の意識で適切なケアを行えるように取り組んでいる。排便コントロールなどの際には看護師に助言も求めている。また血液や腫瘍マーカーの検査が必要な方もおられる為看護師を通じて定期的に主治医に採血、結果報告を行って頂いている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 前年度と同じく入院に伴い必要な情報の提供、荷物の準備、2～3日に1度は必ず面会を行い様子を確認している。経過を病院のナースから聞き、付添いのご家族からも情報を頂いている。受け入れに関してこちらからアプローチし早期の退院を目指している。医者から手術や疾患についての説明や話し合いの場に参加させていただいている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 前年度に続き、介護、看護、医者の判断で終末期・重度化の傾向が考えられた時点でご家族に連絡し、意向や対応の確認を行っている。その後、事業所でできる最大限のことや、ご本人に適した事業所の紹介、医療機関ができること、緊急時の対応も含めたプランを作成し、ご家族に説明、同意を得て取り組んでいる。短期間での話し合いを何度も持ちご家族の不安や思いも聞くよう心掛けている。話し合われた内容は記録するようにはしている。</p> <p>(外部評価) 看取りケアの指針を持ち、実績もある。事業所としてできること、できないことについて利用者や家族等に説明し、終末期のあり方について意向を伺っている。利用者の状態に応じてその都度利用者や家族等から意向を伺い、協力医療機関を交えた話し合いの機会を設け、個々の希望に沿った終末期を迎えられるよう検討している。職員は勉強会や話し合いで学び、取り組み内容について振り返りの機会を設け、家族に報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルや事故発生時の緊急連絡マニュアルはあるが、応急手当や初期対応の訓練は定期的には出来ていない。事故を未然に防ぐために、「こんなときどう対応するか？」事例を挙げそれぞれの対応について話し合い、危険箇所や優先順位の確認を行っている。見守り携帯を使用し隣ユニットと連携に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 事業所では年二回、他事業所と協力し防災訓練を行っている。また、法人全体での訓練にも参加している。実際に防火訓練中前後利用者様に外に避難して頂き、かかる時間や避難経路の確認を行った。地域との協力は運営推進会議で話し合われているが明確には決定していないので今後も引き続き働きかけていく。 (外部評価) 事業所は平屋建てであるため、避難経路が多数確保できることは緊急時の対応に安心感が持てる。年2回の防災訓練は法人各事業所と協力し、合同で実施している。実際に利用者と避難訓練を実施することで問題点等の気付きを持ち、検討事項が挙げられている。地域住民への協力呼びかけができており、今後の協力体制について検討されている。	訓練での気付きによる事業所内環境の改善や、地域住民との具体的な協力体制づくりの取り組みに期待する。また、自主的に定期的な点検や避難経路の確認、話し合いの機会を設けることで、利用者や職員の不安軽減を図り、より安心して暮らすことへの支援につなげて欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の会話の中で御利用者様一人ひとりが大切にしている物事や、習慣の把握に努め最大限気持ちよく実践できるように、どう支援すればよいか考え、ケアプランに盛り込んでいる。カンファレンスでもその方に合う尊厳を守った言葉使いや行動をとれるように話し合っている。特にトイレや入浴時など気を付けている。 (外部評価) 利用者個々の人格や習慣、思い等、それぞれの利用者のその人らしさに焦点があてられ、敬意をはらった対応となっている。言葉かけは日々の慣れが出やすい場面であるため、注意を払い必要に応じた指導をしている。入浴や排泄等特に羞恥心への配慮は適切に行われており、人として不快だと感じる事、傷つけてしまうことがないように対応することが徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 前年度に続き、思いや希望を言葉や態度にして伝えられる方には可能な事から取り入れている。伝えることが困難な方もいるので伝える事を容易に出来るように選択しやすいような場面を多く作るようにしている。アセスメントの段階で、いろいろな物を掲示し、反応の良かったもの等を記録に残している。読んで選べる方には文字の表を使ったりカードを作ったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<b>(自己評価)</b> 前年と同じくご利用者の訴えや希望とQOLの高い生活とを考慮して、その時の人員で可能な限り希望に添った生活をしていただいている。外出をしたり食事の時間を変えたりと内容は様々。ご利用者様一人一人に合わせる事が出来るように離着床の時間をずらす等している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<b>(自己評価)</b> 散髪は施設でされている方もおられるが、カットに行っている方もおられる。昔の写真や御家族から情報を頂いたりしてその方の馴染みの容姿に近づけている。髪染めを希望される方には入浴前に行っている。選択することが可能な方に衣類を選んでいただいたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<b>(自己評価)</b> 前年度と同じく料理の手伝いが可能な方には手伝ってもらっている。各工程に細かく分ける事で多くの方に手伝ってもらえる事が出来ている。片付けや台拭きも同様である。献立もご利用者と相談をして、食べたいものがメニューに入っている献立作りを行っている。食事中は離れた席であっても食事状況を確認しながら、会話をし、楽しい雰囲気作りをしている。また嚥下状態や口腔内の状態から以前よりも機能の落ちている方でも食事の出来るように個別に形状、メニューを変えている方もいる。 <b>(外部評価)</b> 法人栄養士が献立を立て、調理員が食事作りを担当している。ユニット毎に利用者の好みを取り入れた内容となっており、状態に応じた形態や量、器具への配慮が行われ、利用者は職員と共に準備や片付け等できることを手伝っている。菜園では季節の野菜作りを行い、干し柿づくり等の季節の手仕事を楽しんでいる。利用者の状態やその時の思いを大切にし、居室での食事や配席への注意が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<b>(自己評価)</b> 前年度と同じく栄養士作成による献立を基本にしている。食事は個人差を把握し量や形態、道具を用意しわかりやすいように提供している。食事状況を毎日確認しているので都度、見直し対応している。水分摂取量も個別に健康状態を考え目標摂取量を定め種類、形態を多く用意し提供している。体重や疾病等を考慮し、個人にあった食事量を調節して提供している。自身で食べる事が難しい方でも極力食べる事が出来るように見やすい食器を使ったりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<b>(自己評価)</b> 毎食後、口腔ケアを自力でされる方には声かけし磨いてもらっている。自力で行うことが難しい方は、出来る範囲で行ってもらい、不十分な箇所は介助を、洗面台で困難な場合は自席でガーグルやブラシを用意しケアしている。定期的に歯科衛生士の方に往診に来ていただき、口腔内の状況を確認して頂いており、アドバイスももらっている。磨き残し等多い場所には注意してスタッフが介助している。義歯はや歯ブラシは週1回洗浄、消毒を実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 前年度と同じく排泄パターンを調べトイレでの排泄をしていただいている。可能な方、状況であれば極力トイレで排泄をしていただけるようにケアを行っている。時間帯やタイミングを調べる事でトイレでの成功率が上がったご利用者様もおられる。また排泄を自力で行う方にもどうすれば自力排泄につながるかをスタッフで考え共有し、ケアに反映させている。特に介助が必要な方の就寝後はセンサー対応している。</p> <p>(外部評価) 食事や排泄、水分等健康面に配慮をしながら、記録により排泄パターンを把握し、利用者個々のリズムや習慣に応じた対応を実施している。おむつを利用する利用者には適切な用品の選択を検討している。利用者の身体機能の維持やできることを奪わないケアを念頭に、介助バーの位置や用品の配置等改善に取り組みながら、トイレでの自然排泄を大切にしたい自立支援へつなげている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 前年と同じく個々の排便パターンを今までのデータから調べ、排便に効果的であると思われる食べ物を食事に取り入れたり、センナ茶等を使用し極力下剤に頼らない排便を目指している。体操や運動も日常の中に取り入れている。センナ茶の反応便のパターンやその方の腹部の貼り具合等からアセスメントを重ねている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 前年同様入浴を心地よいものにするために、体調の確認、同性介助や入浴の声かけ、時間帯を工夫し個々の利用者に応じた対応をしている。介護度の重度化により自身では入浴の難しい方でもユニット間で協力し2名介助で浴槽に浸かったり、安全に更衣、移乗を行う事が出来ている。認知症の進行度合いにより会話やスタッフでの場面転換を行ったりしている。現在多くの方が笑顔で入浴することが出来ている。</p> <p>(外部評価) ユニット毎に個別浴槽があり、週2回の利用を基本とし入浴している。近隣の法人他事業所の大浴場を利用することもあり、希望や状態に応じた柔軟な対応ができています。入浴が苦手な利用者は、無理強いすることなく清潔保持ができるように対応を工夫し、家族の協力を得て利用者が安心して入浴できるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 前年度同様に利用者の方の睡眠状態や体調を観察し、それに応じて時間や場所を制限せず、休める時、休みたい時にゆっくり休んで頂けるようにしている。個々に応じた睡眠の必要性を学び、生活にメリハリをつけられるようにしている。事業所で睡眠についての勉強会も行った。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 前年同様ご利用者の薬について効用、副作用を知る為にミーティングでの勉強会を実施している。服薬については学んだ知識とご利用者の状況を分析し看護師や医者と相談し必要に応じ見直し服薬変更することもある。新たに服薬されたものについては副作用等注意しておかなければならない点を業務日誌に記入している。変調等見られる場合には服薬の状況も視野に入れてケアに取り組んでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれの得意だった事や現在も行える事を見つけ、娯楽や気分転換の時間として提供している。裁縫や細かい作業が得意な方には生活の場でそれをして頂いている。認知症状の進行や体力的な衰えから出来る事が減っている方でも、行動を断片的にしたりして出来る事を作っている。継続して行える事はケアプランに入れ実施する機会を作っている。季節の行事や食事、おやつ。敬老会や誕生日会等を実施している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 前年同様各ご利用者様をしっかりとアセスメントし、行きたい場所への外出を行えるように支援している。ご家族と協力して散髪に行ったり、市外の妹さんの所へ行かれたりもしている。本人の希望に添う外出を行っていただけるようにアセスメント、実践を行っていきたい。希望があれば、法人内の事業所が合同で行う日帰り旅行に参加。 (外部評価) 外出や月々の行事企画も季節感溢れる内容となっている。法人各事業所と協力した旅行や祭りなどの行事はもちろん、季節折々の外出行事は気分転換や五感刺激、出かける先々での人々との交流が行われている。日々それぞれの利用者がしたいと思うこと、行きたいと思う場所への支援は、これまで通り出かけることを当たり前継続できるように検討され、支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は金庫にて個別に管理しているが、必要に応じて、ご利用者の希望時に所持して頂けるようにしている。金銭の概念があり、欲しいものがある方にはその方の手で支払いをしていただいている。手持ち金銭の紛失に関してはご家族に了承を頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族との連絡を取りたいと希望される方がおられるが、その訴えを直接でも間接的にでも聞いた際には確認し、電話をかけ連絡を取っている。最近ではご家族様からご本人様への電話も増えた。また手紙が来た際にも返事を書いてもらい返信、難しい方には想いを代筆したりして連絡を取り合っている。絵手紙等の作品もご家族宛に送っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>その季節に咲く花をご利用者様と一緒に摘んでフロアに飾ったり、夏にすだれを出し季節感を演出している。また共有スペースでも個別に過ごせる場所を作り、本人にとって居心地の良いと思われる場所づくりを行っており、住まわれる入居者様に合う環境づくりを目指している。掃除は毎日行い、汚れたらすぐに対処している。また、快適な室温湿度に気を付けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>共用空間は落ち着いた色調の設えで、利用者の集うリビングには和紙の明かりが優しく、ユニット間の中庭が眺められる落ち着いた空間づくりとなっている。日よけを兼ねた藤棚は青々とし、家族等との話でヒントを得て談話コーナーを設けたり、手すりやスロープの設置等環境整備に取り組みながら、そこで暮らす利用者や訪れる人にとって心地よく安全に過ごすことができるよう工夫されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ゆったりと過ごせる空間が1つではなくいくつかあり、入居者様の心情等タイミングに応じて使い分けている。場合によって目隠し等も出来るようになってきている。またその方が習慣的に手伝って下さっている作業がしやすいような席の配置等にしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>前年度と同じく使い慣れた家具や布団、小物ものなど馴染みのものを置くことで、使いやすく落ち着ける空間作りを行っている。少しでも今まで生活していた環境に近い状態を作るようにご家族の協力の下環境整備を行っている。また、認知症状の進行やADLに変化があった場合は可能な限り安心、自立、できるような空間作りを心がけている。写真や仏壇、詩集などが居室にある事でスタッフが居室を訪ねた際にコミュニケーションのきっかけにもなっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室は入居前の自宅を再現する工夫がされ、家族の協力を得て馴染みの物を持ち込んでもらい、環境の変化による不安感の軽減に努めている。利用者の状態に応じ安全に利用できるよう家具の配置や床材の検討等を行い、利用者が居心地よく過ごせるよう支援することができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>各ご利用者様に合わせて使いやすいように家具の高さや形を調整している。各場面で理解がしやすいように文字を使用している部分もある。家族の面会后、玄関までお見送りに行かれる方がおり1人でも安定した歩行を行えるよう手すりを設置した。居室から玄関まで安全に移動できるように手すりを増設した。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500170
法人名	社会福祉法人 すいよう会
事業所名	グループホーム ほの花
所在地	新居浜市郷三丁目16-33
自己評価作成日	平成27年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年6月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ほっと、のんびり、かきねなし」この理念の元、入居者様の意向を大切に開かれた施設でありたいと努力している。ご家族との信頼関係、地域の方との交流を大切にしている。水分摂取に力を入れ、個別に目標を設定し、脱水の予防、便秘予防、日中の覚醒レベル向上に活かしている。排泄ケアにも力を入れており、排泄チェック表での排泄リズムの把握で、日中はほぼ布パンツで過ごせるよう自立支援に努めている。また、認知症状の改善には、服薬の見直しや学習療法を取り入れ、コミュニケーション能力の改善や生活の活性化に繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

予讃線沿いののどかな景色の中にある事業所は開設5年目を迎え、近隣には母体法人が運営する事業所が多数あり、相互協力することができている。事業所ではグループホームという集団生活の中にも利用者個々の個別性を大切にすることが実践できており、利用者一人ひとりの「その人らしさ」に焦点をあてた支援に努めている。5年間を経て地域交流が自然な流れで広がり、協力医療機関とのスムーズな連携を図りながら日々の健康管理と共に利用者の暮らしを支えている。法人研修システムや事業所内外での勉強会への参加、マイケアプランの作成による職員を育てるしくみを持ち、ユニットリーダーを中心とした運営の中で和気あいあいとした職員関係が生まれ、利用者や家族等の気持ちに寄り添える関係づくりを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームほの花

(ユニット名) 椿

記入者(管理者)

氏名 阿部勇一

評価完了日

平成27年6月5日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 前年度と同様にユニットで作成した理念に基づきケアプランを作成し、日々のケアに取り組んでいる。ユニット理念は、ユニット入口に掲示し、目につくようにしている。	
			(外部評価) 開設時に職員間で話し合い事業所名から作成した『ほっとのんびり かきねなし』という理念を軸に、ユニット毎に行動方針を掲げている。職員の入職時に説明するほか、利用者一人ひとりの「その人らしさ」を追求し、介護計画や日々のケアへと理念に基づいた実践に努めている。自己評価作成は経験の浅い職員を中心に作成し、地域密着型サービスの意義を再考したり、日々の実践を振り返る機会となっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 例年と同じく自治会加入、地域清掃。地域の行事にも参加しており、清掃活動等も行っている。スタッフもゴミ捨てや外出の際に挨拶や会話を行うようにし、地域の方とのかかわりを持つようにしている。また地域での行事がある際には楽しめるご利用者様と参加するようにしている。	
			(外部評価) 近隣に所在する法人各事業所と共に地域に認識されている。事業所を含め法人合同での祭り等の行事や地域行事等互いに行き来する関係が構築されている。また、開設5年を経て、職員個々がそれぞれの個性を生かしながら地域住民と日常的な関わりを持つことで、自然な流れで交流が深まっていることが実感できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 法人全体で地域参加型の勉強会を開催しており、地域の方にも参加の呼びかけを行っている。自事業所でも運営推進会議の際に、取り組みの発表や、勉強会を行っている。認知症の方の支援や理解について知識を深め、ケアの中でのご家族様との関わりを持つ機会を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 昨年度と同様にご利用者の日常の様子をDVDにまとめ運営推進会議の中でご家族に観ていただいている。質疑応答、ご家族、地域として「こういった事に取り組んでみたい」という事はないか等確認を行っている。	
			(外部評価) 自治会長をはじめ見守り推進委員、民生委員ほか地域住民や、多数の家族参加を得て2か月毎の開催ができています。現状報告等運営に関する報告、地域情報や協力医療機関からの情報などの情報交換のほか、看取りについての勉強会等内容は濃いものとなっている。会議内容はパワーポイント資料を活用する等、視覚的にも意識に残る伝える工夫をしている。推進会議が参加者に有意義な時間となる取組みとなっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加しての感想を聞いたり、行事への参加案内、待機者報告を行っている。流行っている病気等の情報をいただき、カンファレンスで役立っている。	
			(外部評価) 市町村担当者とは良好な関係にあり、日頃から待機者報告等の連絡を通じ協力関係を築いている。また直接市役所に出向き積極的に相談したり、運営推進会議への参加依頼等が円滑にされている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 毎年4月度の全体ミーティングで身体拘束についての勉強会を行っている。以前同様夜間以外の施錠は行っておらず、ご利用者に動きがあった際にご利用者の気持ちや、どうしたいのか等関わりやケアを優先して行動できるように話し合いを持っている。	
			(外部評価) 身体拘束をしない方針を持ち、身体拘束に関する勉強会を定期的に開催することで正しい理解を深めている。身体拘束につながる要因の1つである職員のストレスケアに着目し、管理者やユニットリーダーは職員への精神的な面からのフォローに配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 前年同様研修で虐待防止について学んでいる。管理者、ユニットリーダーは各スタッフのストレスケアを考え、業務の流れや関わりを持際の言動についての把握に努めている。スタッフは痣や傷等身体に異常がないか確認し、介助を行っている。傷などの発見があった場合には原因を分析し、次回起こらないための防止策を考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 前年度に続き研修や勉強会などで学ぶ機会を設けている。現在、自立支援事業や成年後見制度を活用する事はないが、必要性のある際に適時活用できるように今後も学んでいく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず重要事項説明書を用いて、十分な説明を行い各項目毎にご家族に確認をし、承諾を得ている。解約や改定にも速やかに対応し同意を得ている。またご家族の不安なことや疑問を聞くようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族からは運営推進会議や面会時、ケアプランの作成段階で、ご利用者からは普段の会話やケアプラン作成時に意見や要望等を察したり、直接確認する事で、運営に反映させている。  (外部評価) 利用者には日頃の生活の中で希望を聞いている。家族等へは面会時や運営推進会議への参加の際、率直な意見や希望を聞いている。出された意見から中庭のスロープ設置等の環境整備改善に取り組んだり、外出希望等迅速な対応で運営に反映するよう努められている。毎月、担当職員を中心に利用者の生活ぶりをお便りとして届け、現状を伝える工夫を行うほか、介護計画作成に関し、直接または電話で日頃から連絡を密に取るなど、管理者やユニットリーダーだけでなく全職員が家族等との良好な関係づくりを大切にしており、信頼関係が構築されている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングを不定期に行うようになったため、日々の話し合いの中や日常の会話から意見・提案を聞くようにしている。  (外部評価) それぞれのユニット毎に利用者の心情に沿う運営を行い、日常業務の中で職員同士の意見交換ができる良好な関係が構築できている。法人研修システムや事業所内外での研修等で学びの機会を設け、職員の資質の向上に取り組むほか、各自が作成する「マイケアプラン」を元にユニットリーダーと面談の機会を持ち、職員の意欲向上につなげている。管理者もシフトに就いており、職員や利用者の現状について常に把握し、必要に応じた相談や助言ができ、身近な存在となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 前年度に続きマイケアプランの作成と2か月毎の評価を行っている。面接の際、意欲向上の図れるような目標設定と振り返りを行っている。また目標設定の段階で具体性を持たせ、自信を付けていけるものになっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人研修（読書会、人材育成研修、管理者研修、認知症、介護技術等）の研修システムがあり、職員の質の向上に努めている。ほの花内でも年3～4回勉強会をし小グループでの発表等も行い知識の伝達、伝達技術の向上、共有を目指して取り組んでいる。法人外研修へは研修受講記録を作成し研修参加者が偏ることなく長の判断により必要と思われる研修へ参加してもらっている。今後は自ら参加したい研修があれば参加できるよう取り組んでいく。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 前年度と同じく、他事業所との相互見学、ご利用者様と一緒に他事業所でのレクリエーションや行事、外出へ参加し、交流を図っている。また法人内でも木鶏会、人材育成を行っており、他事業所の職員と意見交換交流をする機会を作っている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居が決まった段階からユニットリーダー、一定のスタッフが数回にわたり面会し、そこで得た情報、要望など、全スタッフに周知している。入居してからがスタートではなく、それ以前より関係性や顔なじみの職員がいることでリロケーションダメージの軽減や、安心できる居場所づくりの基礎を作れるよう取り組んでいる。また住まわれている部屋の雰囲気や家具の配置をほの花でも再現し、可能な限り馴染みの空間での生活を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 前年度に続き、ご家族にも積極的に話し合う時間を作ったり、ご家族の不安な事や困っていることに傾聴する姿勢を持って対応を行っている。ご家族の本当に不安に思っている事が何か理解する為普段の面会等の際でも何気ない会話から情報が無いか気を付けている。ご家族の要望や不安をしっかりと受け止め、答えを出し、関係性を築いていっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 前年度と同じく、事前面接での情報を基に、安心して生活できる環境作り（物的、人的環境の整備）に努めている。また、ご本人やご家族に何度でも見学して頂き、納得して入居出来るよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることができる場面を多く作る為に、入居者さんが出来ることを奪わないよう配慮し、各自役割を持っていただき一緒に行っている。カンファレンス時、一人一人の役割について検討している。また、役割として知識や技術、人生論、経験してきたことを聞かせてもらい、より良い関係が築けるよう努めている。調理、菜園、編み物、縫い仕事では教えてもらうことも多い。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者が不穏な場合には電話での対応、面会、宿泊などの協力を依頼し、一緒に過ごして頂いている。日常的にご利用者のご家族に望んでいることでは、家族と相談し、家族が出来る支援を話し合いケアプランに盛り込んでいる。家族が認知症についての知識が乏しく、本人との価値観が違うことで、関係が悪化するような場合には職員が介入し家族と話し合い何が大切なのかを理解、確認し改善できるよう取り組んでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのある場所（美容室、お墓、お寺、神社、デイ、商店、ドライブなど）へ出掛けている。入居前に使っていた社会資源は調べており、現在も継続して使用できている。回数は以前に比べると減っているが、最大限取り組んでいる。外出が難しいご利用者で会いたい人がいるような場合は来訪して頂けるよう支援している。  (外部評価) 利用開始前に詳細に生活歴等の情報を調べ、職員間で共有できしており、利用者がこれまで大切にしてきた関係を断ち切ることなく継続できるように努めている。また事業所での生活の中で利用者同士の関係が円滑に保てるよう配慮があり、本人の気持ちを大切にされた支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者の性格、好み、相性、言動などの視点から関係性を考え日常生活を送る様々な場面で配慮している。共通項を探し無理なく自然と良い関係が築けるような支援をするよう心がけている。自ら食事介助を手伝って下さるご利用者もいる。個々の状態を見極め集団と個別で過ごす時間を作る事で「快」の時間が多くもてるように対応している。また、ご利用者同士でのトラブルになる可能性が高い場面では職員が間に入ったり、普段過ごす場所を見直す事でトラブルの予防をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後もご利用者様のご家族と連絡を取り、関係性を継続するよう心掛けている。退去後もご家族様が訪ねて来て下さることもあった。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で個々に職員が関わる時間を意図的に作り、本人のニーズや思いを把握するようにしている。日常の中で出たふとした言葉や、個別に関わって得た情報は日誌、月間記録に記入し、それを基に日々話し合うことでケアの見直しに活かし共有するようにしている。即実現可能な件は迅速に、そうでない件も実現可能に向け話し合うようにしている。困難な場合でも、「生活歴や基本的な人間の営みとしてQOLが高く、その人らしく生きる」ことを前提に考え取り組んでいる。  (外部評価) 日頃の生活の中で利用者個々の思いを把握できるよう個々の関わりを大切にしている。思いを伝えることが困難な状況にあっても、家族等からの情報はもとより、これまでの関わり中で蓄積された記録等から、その人らしさとは何であるか、理念に立ち返った本人本位の検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族の来訪時の会話やサービス利用のあった事業所からの情報提供、普段の会話の中から把握できるように努めている。面会に来ていただいた方や、傾聴ボランティアさんからの情報も参考にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 集団生活ではあるが、必ずしもみんな同じ時間という事にこだわらず、ご利用者1人1人の生活のペース・リズムに合わせて生活していただいている。身体の把握では、異変を感じた時のBDチェックを徹底している。看護師とも密に連携し相談することで適切な対応を心がけている。精神面では記録表に時間帯、行動、訴えなどを記録し一日だけでなく、一か月、半年と比較し原因の調査とケアの方針を決定している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 月間記録を用い、日々話し合いチームのケアとして取り組んでいる。以前はミーティングで話し合っていたが、日々話し合うことで、現状に即したケアをより早く行えている。職員はペアで担当を持ち、個人ワーク、月間記録を基に話し合い、介護計画を作成している。一人の視点ではなく多くの視点を活用することに努めている。その中で、ご利用者本人の言葉を最優先に考えるようにしている。また、作成前には家族の思いを確認することや、本人の希望や課題について相談するようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者に対し複数人の担当制を敷くことで、多角的視点での気付きを持つことができている。利用者や家族等からの意向を踏まえ、他部署や専門家の意見や協力を仰ぎながら、個別の暮らしをサポートする具体策を話し合うことができている。現状に即した介護計画へとつなげている。また状況は日々詳細に実施記録として残されており、根拠あるモニタリングができている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別ケース記録、生活記録表、ケアプラン実施表は毎日記入し、その中で特筆すべき事は業務日誌、月間記録に記載し共有するようにしている。月間記録を基に日々ケアについて話し合い、ご利用者の再アセスメントとケアプラン評価表に用い介護計画の見直しに活かしている。情報の共有化にため、出勤者が必ず見る業務日誌に連絡事項等に綴じる事が出来るよう1冊にまとめている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) その時々ニーズに対応できるよう、他事業所の協力やユニット同士の連携を図っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 様々な地域資源を活用し、ご利用者それぞれが力を発揮できるように支援している。地域の不要な柿をご利用者様と一緒に集めに行ったり、スタッフの家の畑に野菜を取りに行ったりした。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>かかりつけ医は大半が入所と同時にいまなかクリニックになっており看護師が中心となり往診の対応をしたり、家族と協力し受診している。ご利用者やご家族が困る事がないように必要に応じて同行したり書面を用意している。いまなかクリニック以外のかかりつけ医の受診や専門機関への受診も同様に受診連絡表を作成し、生活記録表のコピーをわたし、必要であれば同行する事で適切に医療を受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>多くの利用者が協力医療機関をかかりつけ医として利用している。専門医等本人の希望する医療機関への受診も家族等の協力を得ながら支援しており、必要に応じ同行や情報提供、緊急対応を行っている。看護師と共に日々の健康管理や緊急時の医療連携をスムーズに図っており、利用者や家族等の健康に関する不安の軽減に努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>特別な変調や気づきがあった際には看護師に報告し、指示を仰ぐようにしている。介護職員とも話す機会を持ち、現場でも実際にご利用者様を見てもらい共通の意識を持てるようにしている。ケアの変更等がある場合には理由も業務日誌に記入し、共通の意識で適切なケアを行えるように取り組んでいる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院に伴い必要な情報の提供、荷物の準備のほか、付き添いが必要な場合は家族と相談し介護サービス以外の機関の紹介や仲介を行っている。早期退院に向け入院中は面会や病院関係者に状況を説明してもらい退院後の受入準備をしている。手術や重い疾患など発見された場合は家族に依頼し医者との話し合いの場に参加させてもらうようにしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>介護、看護、医者の判断で終末期・重度化の傾向が考えられた時点でご家族に連絡し、意向や対応の確認を行っている。その後、事業所でできる最大限のことや、医療機関ができること、緊急時の対応も含めたプランを作成し、ご家族に説明、同意を得て取り組んでいる。短期間での話し合いを何度も持ち、ご家族の不安や思いも聞くよう心掛けている。話し合われた内容は記録するようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>看取りケアの指針を持ち、実績もある。事業所としてできること、できないことについて利用者や家族等に説明し、終末期のあり方について意向を伺っている。利用者の状態に応じてその都度利用者や家族等から意向を伺い、協力医療機関を交えた話し合いの機会を設け、個々の希望に沿った終末期を迎えられるよう検討している。職員は勉強会や話し合いで学び、取り組み内容について振り返りの機会を設け、家族に報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルや事故発生時の緊急連絡マニュアルはあるが、応急手当や初期対応の訓練は定期的には出来ていない。事故を未然に防ぐために、「こんなときどう対応するか？」事例を挙げそれぞれの対応について話し合い、危険箇所や優先順位の確認を行っている。夜間は見守り携帯を使用し隣ユニットと連携に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 事業所では年二回、他事業所と協力し防災訓練を行っている。また、法人全体での訓練にも参加している。実際に防火訓練中前後利用者様に外に避難して頂き、かかる時間や避難経路の確認を行った。地域との協力は運営推進会議で話し合われているが明確には決定していないので今後も引き続き働きかけていく。 (外部評価) 事業所は平屋建てであるため、避難経路が多数確保できることは緊急時の対応に安心感が持てる。年2回の防災訓練は法人各事業所と協力し、合同で実施している。実際に利用者との避難訓練を実施することで問題点等の気付きを持ち、検討事項が挙げられている。地域住民への協力呼びかけができており、今後の協力体制について検討されている。	訓練での気付きによる事業所内環境の改善や地域住民との具体的な協力体制づくりの取り組みに期待する。また、自主的に定期的な点検や避難経路の確認、また話し合いの機会を設けることせ、利用者や職員の不安軽減をほかり、より安全に地域暮らせることへの支援につなげて欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人の生活歴や日々の会話の中で一人ひとりが大切にしている物事や、習慣の把握に努め最大限気持ちよく実践できるように、どう支援すればよいか考え、ケアプランに盛り込んでいく。身体介護（特に入浴、排泄）においては極力本人の意向に沿うよう職員間で協力し対応している。 (外部評価) 利用者個々の人格や習慣、思い等、それぞれの利用者のその人らしさに焦点があてられ、敬意をはらった対応となっている。言葉かけは日々の慣れが出やすい場面であるため、注意を払い必要に応じた指導をしている。入浴や排泄等特に羞恥心への配慮は適切に行われており、人として不快だと感じる事、傷つけてしまうことがないように対応することが徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 思いや希望をしっかりと伝えられる方はその都度、言葉や態度に耳を傾け可能な事から取り入れている。伝えることが困難な方もいるので少しでも伝えやすいように、選択しやすいような場面を多く作るようにしている。職員が強制してしまわないように意思決定しやすい言葉を使うよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所では職員が単独で行う業務を優先しないように徹底している。限られた人員、時間の中で最大限その人らしさが支援できるよう、生活して頂いている。また、その時その時のご利用者の体調や気持ちや希望を優先するよう話し合い、臨機応変に対応する事を心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの好みを大切に、身だしなみを整えている。更衣する際も職員が決めるのではなく、いくつか提示し、ご利用者自身に選んでいただけるようにしている。起床時、更衣で混乱する方には前日に用意している。散髪は施設でされている方が多いが、馴染みの美容室にカットに行かされている方もいる。今後も身だしなみやおしゃれを意識するような行事や場面を多くしていきたい。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の手伝いが可能な方に出来る事を手伝ってもらっている。個々に得意な料理や食べたい料理があれば、メニューを一緒に立て、一緒に作る事もある。調理以外ではお茶いれ、盛り付けを共同で行い食事の準備を行っている。食事中は音楽を流し同じテーブルに座り同じものを食べ食事状況を確認しながら会話をし楽しい雰囲気作りを心がけている。隣のユニットに協力してもらい、居室で食事される方の所にも職員が行けるようにしている。後片付けも同様である。 (外部評価) 法人栄養士が献立を立て、調理員が食事作りを担当している。ユニット毎に利用者の好みを取り入れた内容となっており、状態に応じた形態や量、器具への配慮が行われ、利用者は職員と共に準備や片付け等できることを手伝っている。菜園では季節の野菜作りを行い、干し柿づくり等の季節の手仕事を楽しんでいる。利用者の状態やその時の思いを大切に、居室での食事や配席への注意が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は個人差を把握し量や形態、道具を用意し提供している。姿勢にも注意しクッションを使用したり、テーブルの高さを調整し、極力自力摂取して頂けるよう工夫している。食事状況を毎日確認しているので都度、見直し対応している。水分摂取量も個別に健康状態を考え目標摂取量を定め、種類、形態を多く用意し提供している。提供時間も本人の状態に合わせ柔軟に対応している。コップの大きさ、形も工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを自力でされる方には声かけし、義歯を外して磨いてもらっている。自力で行うことが難しい方は、出来る範囲で行ってもらい、不十分な箇所は介助を、洗面台で困難な場合は自席でガーグルやブラシを用意しケアしている。定期的に義歯洗浄剤を使用し、週に一度は道具の洗浄も実施している。希望や口腔内の状況に応じて歯科医や衛生士によるケアやアドバイスをもらい道具を揃え対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 生活記録表に記録しながら、利用者の排泄パターンや状態を把握している。食前・食後トイレに座る習慣をつけている。利用者に応じて声かけや定期的な誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。特に介助が必要な方の昼寝や就寝後はセンサーを使用しトイレ誘導している。失禁状況を分析し、可能であれば布パンツに移行したり、パットの種類も尿量に応じ見直している。ご利用者が、トイレに座って排泄できる限り、トイレでの排泄を支援している。</p> <p>(外部評価) 食事や排泄、水分等健康面に配慮をしながら、記録により排泄パターンを把握し、利用者個々のリズムや習慣に応じた対応を実施している。おむつを利用する利用者には適切な用品の選択を検討している。利用者の身体機能の維持やできることを奪わないケアを念頭に、介助バーの位置や用品の配置等改善に取り組みながら、トイレでの自然排泄を大切にした自立支援へつな</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 生活記録表のデータを基に個々に排便のパターンを把握し、予防として排便に良いとされる食べ物や飲み物（玄米、牛乳、ヨーグルト、センナ茶など）を日常的に取り入れ、極力下剤に頼らないようにしている。集団レクや個別ケアの中に多く運動を取り入れ、必要な方には腹部マッサージを実践している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 一人一人の入浴希望を確認している。毎日の入浴を希望する人はいないので定期的に入浴できるよう声掛けしている。入浴の方法も、シャワーチェアの使用や2名介助、同姓介助、浴槽に入る入らない等、ご利用者の状態や希望にあわせている。拒む人には、入浴前からのアプローチを工夫したり、施設内の風呂だけでなく、自宅や、銭湯、デイなどの風呂も活用している。時間帯も、午前、午後、夕方と柔軟に対応している。</p> <p>(外部評価) ユニット毎に個別浴槽があり、週2回の利用を基本とし入浴している。近隣の法人他事業所の大浴場を利用することもあり、希望や状態に応じた柔軟な対応ができています。入浴が苦手な利用者は、無理強いすることなく清潔保持ができるように対応を工夫し、家族の協力を得て利用者が安心して入浴できるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) ご利用者の睡眠状態や体調をしっかりと観察し、それに依って時間や場所を制限せず、休める時、休みたい時にゆっくり休んで頂けるようにしている。個々の利用者に応じた環境を整えている。夜間不眠傾向にある方には、日中の活動量を増やし、気持ちよく眠れるよう支援している。どうしても昼夜逆転してしまう入居者さんには医者や相談し必要最低限の睡眠薬を使用し、安定した生活を送れるよう支援している。事業所で睡眠についての勉強会も行った。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が使用している薬の一覧表を作成してくれている。薬については学んだ知識とご利用者の状況を分析し看護師や医者と相談し必要に応じ見直し服薬変更することもある。変更時は、日誌、月間記録に効用、副作用を記載し共有できるよう心がけ、症状・状態の変化にも気を付けている。また、薬の種類が多いご利用者で、見直しの為に在宅服薬管理を利用し、薬剤師にも助言をもらっている方もいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご利用者との会話や、家族、過去を知る人から情報を集め日々の生活の中で趣味や特技をどのように支援すれば役割や楽しみとして活かせるか話し合いケアプランを作成し実践している。また、季節の行事や非日常を演出するような行事を計画し楽しんでもらえるよう工夫している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご利用者の希望と習慣を把握し、行事での外出、個別ケアでの外出を明確にし予定を立て日々支援している。突発的な希望に対しても職員間で話し合い出来る限り対応している。年に一度は遠出の外出支援を計画・実践している。遠い近い、多い少ないではなく、ご利用者に無理のない頻度で安心して楽しめるよう考えケアプランを作成し実践している。法人内の他事業所の外出行事にも参加することもある。 (外部評価) 外出や月々の行事企画も季節感溢れる内容となっている。法人各事業所と協力した旅行や祭りなどの行事はもちろん、季節折々の外出行事は気分転換や五感刺激、出かける先々での人々との交流が行われている。日々それぞれの利用者がしたいと思うこと、行きたいと思う場所への支援は、これまで通り出かけることを当たり前継続できるように検討され、支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は金庫にて個別に管理しているが、必要に応じて、ご利用者の希望時に所持して頂けるようにしている。一緒に買い物に行き好きな物を買ったり出来るよう個別ケアも行っている。預かり金以外に家族からお金をもらい個人管理している方はご自身で支払いする事もある。ご本人管理の金銭については紛失などの恐れがあることを家族に理解してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人から希望があれば電話をかけたり、ご家族から電話をかけて頂くなどしている。手紙や小包が届いた場合はお礼の連絡をしたりするようにしている。希望時以外にも、家族の事を気にされ落ち着かない時等、こちらから声掛けし電話をかける事もある。家族との連絡用に携帯電話を持たれている方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節のものを置いたり、ご利用者の方が作られた作品、散歩途中で摘んだ花を各テーブルや洗面台に飾っている。中庭にも、花を植えたり、冬には、干し柿をつるしたりしている。フロアは毎食後、トイレ、廊下は毎朝掃除し清潔にしている。トイレの隅にバケツ、雑巾を置き汚れていたらすぐ掃除できるようにしている。快適に過ごせるよう温度湿度には注意している。</p> <p>(外部評価) 共用空間は落ち着いた色調の設えで、利用者の集うリビングには和紙の明かりが優しく、ユニット間の中庭が眺められる落ち着いた空間づくりとなっている。日よけを兼ねた藤棚は青々とし、家族等との話でヒントを得て談話コーナーを設けたり、手すりやスロープの設置等環境整備に取り組みながら、そこで暮らす利用者や訪れる人にとって心地よく安全に過ごすことができるよう工夫されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 少し目隠しになっている廊下のイスや、ソファで気の合うご利用者同士お話をされている。畳の位置を変え、足を伸ばしてくつろいでテレビを観たり、正座するのが難しい方でも座れるように工夫している。ご利用者の状態、状況に応じて、座席の変更や配置換えを行い、心地よく過ごせるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具や布団、小物など馴染みのものを置くことで、使いやすく落ち着ける空間作りを行っている。少しでも今まで生活していた環境に近い状態を作るとご家族の協力のもと環境整備を行っている。また、認知症状の進行やADLに変化があった場合は可能な限り安心、自立、できるような空間作りを心がけている。家族の写真などが居室にある事でコミュニケーションのきっかけにもなっている。</p> <p>(外部評価) 居室は入居前の自宅を再現する工夫がされ、家族の協力を得て馴染みの物を持ち込んでもらい、環境の変化による不安感の軽減に努めている。利用者の状態に応じ安全に利用できるような家具の配置や床材の検討等を行い、利用者が居心地よく過ごせるよう支援することができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 共有スペース、居室出入り口には転倒防止のため、手摺りを設置。トイレ、風呂、居室には表札や表示をご利用者の目線にあわせ設置しわかりやすくしている。居室内で混乱する人も同様に表示等を活用し安心して過ごせるよう配慮している。トイレの棚の高さやペーパーホルダーの位置を変えたり、ご利用者の行動に合わせて手摺の位置も変えている。玄関の椅子の配置を変更し、少しでも安全に靴の着脱が出来るようにしている。</p>	